

学園だより

社会福祉法人 至誠学舎立川

至誠学園

平成25年3月1日

〒190-0022 東京都立川市錦町 6-26-15

TEL 042-524-2601 FAX 042-524-2367

<http://shiseigakuen.org/> Email: info@shisei.org

発行 児童事業部 広報委員会

新たな社会的養護 「至誠大空の家」 いよいよ開設 4/1

昨秋、至誠学舎立川は法人創設 100 周年を迎えました。明治 45 年、二人の少年を自宅に引き取ったことから始まった至誠学舎の事業は、震災や火災、少年たちにより良好な環境を求めて、創業の地池袋を離れて立川への移転したこと、昭和 21 年の創設者稲永久一郎翁の急逝、昭和 23 年の少年保護法の改正による事業の終結など様々な困難がありました。

その後、阿観心、高橋利成、橋本良市ら理事を中心に事業は、昭和 24 年の保育園、昭和 26 年の児童養護施設の至誠学園、養老院の開設と開拓的に進みました。至誠学園は昭和 23 年から 3 年間、立川市に建物を中学校の校舎として貸与していたのです。

私は創設者の研究し、実践し、改革的な仕事をしようとする姿を覚えています。少年達を思う創始者や職員の方達の姿、そして戦地から復員し、創始者亡き後の法人再建に日夜努力していた父の再起の姿など、脳裏に焼き付いており、今日の取り組みの基幹となっています。

法人として高齢、保育、児童、障がいの部門がそれぞれの専門性を生かして実践していることも、先駆的な事業を行うことができたことだと思っています。

創設時代の「誠の心」を具現化することは理念であって、直接的なケアの技術や知識を通じて、創造することだと思っています。

法人 100 周年を契機として、将来構想委員会を立ち上げ、今後の社会福祉法人の公共性について考えました。その具現化の一つとして新しい児童養護施設「大空の家」の開設を今年 4 月に行います。時代に即した新たな社会的養護の創造として、また、住民福祉を高めていくパートナーとしての法人でありたいと努力しているところです。どうぞ皆様、よろしくご協力お願い申し上げます。

高橋利一 統括学園長



写真左：
建設中の至誠大空の家
写真下：
子どもたちと一緒に生活する新しいスタッフの研修にて。至誠学園の庭で至誠大地の家を後ろに。



昨年夏に始まった「至誠大空の家」の建設工事は、H25年4月1日の開設に向け、急ピッチで進んでいます。日野市万願寺の閑静な住宅街の中にある、敷地約350坪、3階建て、定員30名の小さな児童養護施設です。1階は事務所や心理相談室、地域交流ホールを備え、2階、3階が4ユニットに別れた子どもの生活スペースです。中高生には、狭いながらも個の時間が守れるよう個室を用意しました。敷地の半分では、子ども達や近隣の方々と一緒に野菜畑や花壇を作り、バーベキューなど収穫を楽しみたいと考えています。近隣には高齢者施設や当法人の保育園もあり、子ども達の自立訓練としても交流を深めていきたいと思っています。子ども達の未来に向け、ゴールドマン・サックスの皆様を始め、多くの方のあたたかなご支援を頂いています。職員は至誠学園より数名異動しますが、半分は元気いっぱいの新任職員です。力を合わせて、子ども達が安心して生活でき、夢や希望を持てる暮らしを築いていきたいと思っています。4月11日にささやかな落成式を予定しております。

大空の家施設長 (25年4月より)

至誠学舎創設 100 周年記念 第 3 回記念講演会 11/3



至誠学舎福祉振興会会長として挨拶

明治 45 年に始まる至誠学舎の事業は昨秋、創設 100 年を迎えました。この大きな記念に合わせて、10 月 13 日に開催した「100 周年記念 至誠まつり」、そして同じく 11 月 3 日に中野サンプラザで「至誠学舎創設 100 周年」の式典が、至誠学舎福祉振興会と至誠学舎を分割した二法人の主催で催されました。諏訪中央病院名誉院長の鎌田實氏の講演会では、終始なごやかな雰囲気に入れられ、会場はあたたかいムードになりました。

合わせて作られた「至誠学舎 100 年の歩み」の記念誌から、法人の歴史を振り返り、創設者の「まことの心」を受け継ぎ、今後の事業の中に生かしていきたいと考えています。

高橋利一 統括学園長

至誠まつり 10/13

(高齢・保育・児童の三事業本部の合同)

今年は法人内の全施設が参加し、バザーやステージアトラクションが行われ、明星大学吹奏楽団も出演しました。学園と大地の家の子どもたちは、いつも歌とピアノの指導をしてくださっている印牧先生ご夫妻のご指導のもと、ステージに立ち、参加の皆様からたくさん拍手をいただきました。



職員の専門性を高める研修

秋の職員研修施設見学 (11 月末 - 12 月)

第 18 回日本子ども虐待防止学会に参加(高知市)したり、他施設を見学させていただいたり、グループに分かれて学びました。興望館沓掛学荘(軽井沢)、野の花の家(千葉、木更津)の皆様ありがとうございました。

新任職員フォローアップ研修 <講師:学園長>

本年度 4 月の新入職員 12 名全員参加で、昼食をみんなで 1 年間の振り返りと次年度につなげる話し合いをしました。2/14

中堅職員研修 <講師:学園長 大地の家施設長>

「リーダーシップとは」「よりよいリーダー像」などについてディスカッションを深める研修を行いました。2/21

外部関係機関主催の研修会にもそれぞれの部署で積極的に参加しています。

カンボジア児童福祉視察 1/21 ~ 1/26

至誠学園の職員 4 名(渡辺新太職員は昨年春より現地に先行して活動)が、Shinjo プロジェクト助成を利用して、NPO 法人アジアの子どもたちの就学を支援する会様(ASAP)のカンボジア視察支援ツアーに同行し、小学校や貧困、虐待などから家族と離れて生活をする子どもたちの施設を見学しました。

施設のマネージャーの女性は、公的支援が期待できない中でも、子どもたちと生活を共にし、尽力されていました。また、民族舞踊を踊る子どもたちの真剣な表情や、母国語であるクメール語に加え、学習している英語を熱心に使う姿が印象的でした。子どもたちが、自分の持っている力を十分に発揮できるよう、環境を整え、見守り応援することが大人の役割であると改めて考える機会となりました。



平成 24 年度 園内 職員専門研修

- 法政大学教授 皆川邦直先生 年 6 回
「思春期の子どもの理解」 上級研修
- 淑徳大学大学院教授 金子 保先生 年 8 回
「法人の理念とケアワーク」 新任研修
- 山梨県立大学教授 西澤哲先生 年 7 回
「入所児童の生活支援と治療的療育」 中堅職員
- 法政大学教授 小野純平先生 年 6 回
「入所児童の学習への支援」 中堅職員
- 昭和女子大教授 高橋久雄先生 年 6 回
「実践力を高めるグループワーク」 中堅職員
- 川井尚先生(至誠大地の家臨床心理)
「メンタルヘルスのために」 地域に公開しました。
- 首藤先生(小児科医)
「子どもたちの健康を守る」
- 高橋利一統括学園長(法政大学名誉教授)
「社会的養護の課題とこれからめざすもの」

社会とつながっていくこと

子ども権利擁護の推進

育てノートの配布 (1/19)

東京都福祉保健局の権利擁護担当の方が来園し、小学生以上の子どもたち全員に「育てノート」を配布し、説明会を行いました。「育てノート」というのは、社会的養護の下での子どもの「生きる」「育つ」「守られる」「参加する」という4つの権利がどう確保され、どのようなつながりのある育ちの道すじをたどってきたのかが明らかになるように努め、作成しているものです。

立川市・日野市こどもショートステイ事業

「一緒に育てていきましょう」とショートステイを利用されているお母さんとお話を1年。ギリギリの状態になる前に、頑張れる目標になる為に定期的なショートステイを利用されています。冠婚葬祭や仕事、入院や病気の時だけではなく、ショートステイを利用される方々の事情は様々です。子育てのお手伝いが少しでも出来ればという思いで、ショートステイ事業の委託がはじまり、地域の中で認知されるようになって来ました。

ショートステイ担当

里親 養育家庭の皆様との取り組み

東京都社会福祉協議会、児童部会、児童養護施設問題検討委員会傘下の専門委員会として里親制度支援委員会が設置されています。委員会の長を拝命して2年、国の社会的養護の方針が大きく里親制度に舵取りがなされました。H24年度、東京都内の乳児院、児童養護施設の20数ヶ所に「里親支援専門相談員」が配置されました。東京都にふさわしい里親支援業務のあり方を確立すべく、修正や調整を重ねながら、情報の共有や学習会などを重ねています。

至誠学園 施設長

里親支援相談員は施設内での里親制度普及と里親委託促進を行います。施設に在籍している全児童について、里親委託の可能性を問い、里親委託候補児童を見出すこと、そして新規の里親さんの開拓と施設機能を資源とした里親さん支援です。H24年度は、前記専門委員会にて情報交換、研修等をし、里親体験発表会等での里親さんとの交流を深めた年度でした。

里親支援専門相談員

実習生

至誠学園

例年通り、大学、専門学校 22校より社会福祉士、保育士の資格のための実習を引き受けています。実習生として各ホームで子どもたちと生活しながら学びます。

至誠大地の家

今年度から至誠学園の保育士実習を受けている大学から、実習生を引き継ぎました。和泉短期大学、昭和女子大学、実践女子大学、日本社会事業大学から合計7名の実習生と1名の認定前里親実習生を引き受けました。

苦情解決システム—第三者委員の皆さま

こまったことや

悩みごとの相談は



社会福祉法第 82 条に基づき、利用者である子どもたちや保護者等からの苦情・意見・要望に対して適切な対応に努めています。

日常的に子どもたちに「困ったことがあれば相談できる」という意識を育て、いつでも利用できる意見表明の機会として「みんなの箱」を本園、グループホームに設置して活用を促しています。

至誠学園において、職員の担当児童への関わり方について、改善が必要ではないか、といった報告事例が12月にあったことから、苦情解決第三者委員会を開催(1/29)いたしました。児童の権利擁護を強く維持しながらも職員としての対応について、委員の皆様のご意見をいただきました。これから継続して検討していく課題として、今後も随時、委員会の開催をしていく事を確認いたしました。

至誠学園 施設長

NPO エンジェルサポート

自立支援プログラム最終日 (1/27)

他施設の子どもたちも一緒 1年間学んだプログラムです。最終日は、学園から4人の受講生、高橋利一学園長夫妻、石田至誠学園施設長、高橋大地の家施設長、職員3名が参加しました。子どもたちは、みんなの前で堂々と自分の夢をしっかりと語ることが出来ました。また、会食終了後、受講生同士がメールアドレスの交換をしている姿に、つながることが出来ているのだと安心しました。

まことくらぶ —西多摩運送体験アルバイト



皆様のお宅には電話帳届いていますか？

まことくらぶでは毎年年末にその電話帳を帳合し、お届けできるようビニール袋の入れる体験アルバイトに取り組んでいます。

今年度も立飛内にある西多摩運送の倉庫内で作業に取り組みました。お届けする1冊を作って4円の出来高制です。延30人の会員の方が会社の方と共に仕事をしたり、休憩や昼食も一緒といった貴重な経験が出来る体験アルバイトです。今後もこのようなお仕事が出来る場所の開拓をしたいと考えております。

施設長

子どもたちの生活 秋・冬

「第17回 みんなでたのしく運動会」 ～一日里親の集い～



10/3 立川公園陸上競技場で行われました。一日里親として東京立川ライオンズクラブの皆様も、子ども達とともに跳んだり走ったり、ご参加くださいました。秋晴れの中、幼児から高校生、大人までが気持ち良い汗をかきながら、一日を過ごしました。

子どもキラット！楽演祭 11/18 (テレビ朝日福祉文化事業団主催)

印牧真一郎先生と由規子先生にご指導頂き、幼児から中学生までのメンバーで元気に歌いました。小学生は楽器の演奏にも挑戦しました。(写真右)



秦野旬子先生指導による創作舞踊。資生堂の方々に舞台メイクもしていただき、はりきって舞台に立ちました。(写真左)



クリスマス会 12/24



I部では地域の子も達も招待して、腹話術、マジック、ダンス、ブラックライトシアターなどのアトラクションを行いました。

II部は、日頃お世話になっている皆様と一緒に食事会を開きました。司会の子どもたちも頑張りました。

お正月の風景

1/1 晴天の中で、屋上にて、元旦式を行い新年のお祝いをしました。健康祈願で頭を噛んでもらうため、錦嚙



子の獅子舞の前には長蛇の列が出来ました。

1/2 書初めでは、それぞれに新年の抱負を書きました。その後は、卒園生友の会の皆さんと外出し、夜は和やかな食事会を開きました。

12/30～1/3 いつもお世話になっている徳井様より、たくさんの美味しい食材を頂き、「陽美勝浦の家」ですてきなお正月を過ごしました。



節分 2/3

赤鬼・青鬼が各ホームに現れました。年男、年女の子もたちを中心に、「鬼は外～」と勢いよく豆をまき、さすの鬼もみな退散しました。

ご協力、ご招待ありがとうございました

サンタプロジェクト 12/8 ゴールドマン・サックスの皆様

毎年恒例の行事で、子ども達はとても楽しみにしています。当日は、たくさんの社員の皆様が来園して下さいました。子ども達の降誕劇や歌のあとは、プレゼントを開けてみんな大喜びでした。



ボウリングご招待 12/2 バンクオブアメリカ・メリルリンチの皆様

お揃いで作っていただいたTシャツを着て、社員の皆様と交流しました。外国の方もいましたが、物怖じせず上手にコミュニケーションをとっていました。



チャリティーパーティ 12/12 GCM インベストメントの皆様

国際文化会館にて、ご支援して下さる方々と楽しく過ごしました。学園長より学園の様子を皆様にお伝えしたり、おいしい食事やアトラクション、サンタさんよりプレゼントももらい、子ども達もニコニコでした。



すみだ水族館ご招待 1/26 オリックス財団の皆様

昨年オープンしたばかりの新しい水族館で、子どもたちは水槽の前で目を見開いていました。

劇団四季 ライオンキングご招待 2/24 阿部 幸様・郁司郎様

歌と演技の迫力に、すっかり圧倒された子どもたちは「また行きたい」「楽しかった」と感動していました。

その他にも野球観戦など、たくさんの皆様にご協力をいただきました。ありがとうございました。

子どもたちの活躍

サッカー部 三多摩地区サッカー大会に出場



10/21
6 プロ大会
優勝！

11/24 ~ 25
江戸っ子杯
敢闘！

ほぼ全員が緊張し、ピリピリと張り詰めた空気の中で初戦を迎えるも、集中して取り組むことができ、その結果、優勝という最高の成績を残すことができました。

また、Mくんはスポーツマンシップに則ったプレーが評価され「グリーンカード」をもらいました。

(6 プロ大会)

マラソン部 三多摩地区マラソン大会に出場

2/11 の大会に向けて、1 月から練習をしてきました。当日は寒い中でしたが、昨年より少しでもタイムを早くしようと、頑張って走りました。



小学生低学年の部	Rさん 5位
小学生高学年の部	T君 2位 H君 3位 Nさん 6位
高校生の部	Mさん 1位
職員の部	Aさん 2位
駅伝の部	Mさん M君 区間賞

お琴演奏



高校生の M さん。3 年間部活で取組んだ成果を披露したいと、先生方の協力も得て、職員会議でお琴の演奏してくれました。すてきな和の音色に、職員の気持ちも洗われるような素敵なひと時でした。M さんありがとう！

学園のアクティビティ(年間を通じたプログラム)

- 絵画教室 竹中潔先生 月 1 回
- 音楽教室 印牧由規子先生 週 2 回
- 創作ダンス 秦野句子先生 週 1 回
- 週末のバンド活動 卒園生の指導 週 1 回
- 各種スポーツ活動(学園職員の指導)
野球、ドッチボール、バレーボールなど
- ボーイスカウト、ガールスカウトの活動

子どもたちと国際交流

NGO エジプト行政官研修で来園した皆さまと 2/26

エジプト行政官の皆さま(8名)が、見学に来られ、園内モンテッソーリ子どもの家子ども達と交流されました。



学園長の講話に続いて、園内幼稚園にて、子ども達の様子を見学。言葉は通じずとも、すぐに仲良くなれるあたりは、さすが子どもたちです。(写真左)

子どもたちが日頃、お稽古している日本舞踊を披露。行政官の皆さまから自然に笑顔が見られました。(写真右)



至誠大地の家の行事から

クリスマス会 12/24

各ホームごとにクリスマス会を計画し、聖なる夜を静かに、アットホームに過ごしました。夜は希望者で近隣の立川教会のミサに参加しました。

お楽しみ会 1/7

大地の家の大きな行事の一つです。ホームごとに出し物を決めて、あらかじめエントリーし、練習をします。



さて、みんなの練習の成果は？参加したみんなが楽しく過ごせたことが、一番の成果です。

うさりんがやってきた！ 2/16

明治安田生命の社員の皆様のご協力で、楽しいひと時を過ごしました。子どもたちは大喜びで、抱きついたり、遊んだり、なかなか離れがたい雰囲気でした。



至誠学園後援会

後援会創設以来理事を務めていただき、近年は副会長を務められていた西村よねさんが、平成24年11月12日に92歳でご逝去されました。後援会のご支援をはじめ、あすなろ洋裁ボランティアの会長をなされ、施設文化祭での子どもたちの衣装づくり、ガーデンパーティーやバザーのボランティアと、長年、学園の子どもたちのためにご尽力下さいました。立川市婦人団体連絡協議会、各種団体役員等、幅広く社会貢献をされておられました。生前ご縁のあった私たちで、12月にお別れ会を行いました。

長きにわたりお世話になり、心より御礼を申し上げますとともに、ご冥福をお祈りいたします。



皆様の変わらぬ温かなご支援に、心より御礼申し上げます。子どもたちの健やかな成長を願い、今後ともどうぞ宜しく願っています。

(至誠学園後援会会長 佐々木信孝)

<連絡先> 至誠学園後援会事務局
立川市錦町6-26-15(至誠学園)
TEL 042-524-2601

<郵便振替口座>
口座番号 00140-2-356681
口座名 至誠学園後援会
<銀行口座>
三井住友信託銀行立川支店
口座番号 普通 7902588
口座名 至誠学園後援会

モンテッソーリ立川こどもの家

現在、子どもの家には29名の子どもたちが通園しています。この春、小学校へと入学していく青組(年長児)は、「数」や「言語」のお仕事(モンテッソーリ教具、用具を使って行われる個々の自由な活動)に、意欲的に取り組んでいます。暗算や、教具を使ってのかけ算・わり算にも挑戦しています。文字を書くことの好きな子どもたちは、歌の歌詞を書いてみたり、ホームの職員にお手紙を書いたり、毎日どんどん自分のやりたいことを発見しています。



写真左: ひらがなのお仕事



右: クリスマス会の降誕劇

卒園生友の会

卒園生とともに過ごすお正月 1/2

友の会の皆さんが来園され、在園している子どもたちを、ボーリングやお食事に連れて行って下さいました。家族づれも多く、子どもから大人まで、世代を超えて、にぎやかなお正月のひとつときとなりました。



成人式 1/14

今年はいへんな大雪に見舞われましたが、二十歳を迎えた卒園生の皆さんが挨拶にみえました。

華やかな振り袖や、凛々しいスーツ姿で成人の抱負を話してくれました。



ボーイスカウト・ガールスカウト活動

ボーイスカウト&ガールスカウト合同団新年会

ボーイスカウトとガールスカウト総勢70名で、高尾山登山の新年会を行いました。大勢の登山客に混じり、隊ごとに分かれて、頂上を目指し出発し、午前11時の山頂での集合には、全員がしっかりと到着し、先発したリーダー達のつくった温かな豚汁をいただきました。



写真左:
高尾山山頂にて

富士山がきれいに見えました。

ボーイスカウト立川第四団

2月22日はボーイスカウトの創始者であるベーデン・パウエル卿の誕生日(1857年生まれ)でBP祭と呼ばれており、「世界友情の日」となっています。立川4団でもBP祭を行い、団員皆でたき火を囲みお祝いをしました。

ガールスカウト東京都第158団

この冬も、クリスマス集会、初釜、バレンタイン集会と活動しました。初釜では、お客様や来年度入団する幼児さんもお迎えし、緊張しながらも立派にお手前を披露しました。

日本児童養護実践学会に参加 (2/9)

帝京平成大学で開催された第5回研究大会に発表しました。

**「児童養護施設における学習支援
大手学習塾の社会貢献活動による学習支援
の試み」**

新しい試みなので、他施設の方々から質問をたくさん受けました。

**「児童養護施設におけるボーイスカウト教育
への取り組み」**

子どもが地域の中で育つことの意味がわかったとの感想をいただいたり、児童の保護者が参加しているということがファミリーソーシャルワークとしての意味を持つとの感想をいただきました。

法人合同の社会福祉士の合同勉強会
(3/1)

法人の高齢部門と合同の勉強会(参加100名以上)を今年も開催しました。児童事業本部からは、「養護施設におけるF.S.W ~課題を抱える家庭への虐待予防を通しての検証~」丸山和恵職員(至誠学園)・木山美穂職員(大地の家)が発表し、グループディスカッションでは、ソーシャルワークの視点でどのような支援が考えられるか意見を交わし、部門を超えての学びとなりました。

6月プロ書記会・学習会

12月19日に三多摩児童養護施設連絡協議会の事務職員の研修を、至誠大地の家で行いました。

年に4-5回程度実施されており、事務職員として学習会や情報交換を行い、お互いに交流し高めあうことを目的としています。今回は高橋利一至誠学園統括学園長に制度改革の講演をいただき、大きく変わっている現在の制度について学びました。

高橋利一統括学園長の近況



法人100周年を記念した法人将来構想委員会の報告会で、至誠学園と大地の家の合同の職員会議

メディアの取材が多くなりました。読売新聞、毎日新聞だけでなく、立川を中心とした「えくてびあん」では、「立川の世界」というコーナーで取り上げてもらいました。「日野ニュース」(日野市内に配布)では、大空の家の開設の紹介をしていただきました。それを見た日野市内の方々から、協力の申し込みなどいただきました。

グループホーム探訪シリーズ 第6回
「日野式番館」



日野式番館(借家)は、日野市内の住宅街にあります。目の前には多摩川が流れ、四季の移り変わりが身近に感じられるところです。春は土手沿いの桜がとても美しいです。

小学生から高校生までの子どもたち6人が、時にはけんかをしながらも、和気あいあいと生活しています。みんなにとって居心地のいい場所・生活作りを目指しています。

リビング(写真中)では、大きい子も小さい子も一緒になってリラックスしながらテレビやゲームおしゃべりを楽しみます。
(ホーム担当職員)

子どもたちの進路状況

- (高3)
Mさん・大学進学 Rさん・専門学校進学
A君・専門学校進学 N君・就職 Yさん・検討中
- (中3)
Nさん・都立高校 Aさん・私立高校
Eさん・都立高校 Yさん・都立高校(定)
K君・私立高校 R君・私立高校 T君・都立総合高校 T君・検討中

第三者評価を受けました。

(至誠学園・至誠大地の家)

今年もIMSジャパンの方々により小学生以上の子どもたちにはアンケートと聞き取り調査を受けました。小さい子どもたちのホームでは、昼食を一緒に食べながら、子どもたちの様子を見ていただきました。

編集後記

寒かった今年の冬。少し暖かくなるとほっとしますね。子どもたちもそれぞれ進学、進級し、皆様の応援を頂きながら、がんばっています。先日、6年生が制服の採寸にいらっしゃいました。子どもたちの顔から新たな期待と緊張が伝わってきます。

一方、至誠大空の家の開設により職員も新しいメンバーを迎えます。期待と緊張を持って、新たな出発をしていきたいものです。 広報委員会一同